

平成26年11月6日(木)

老球の細道79号

## カッタージ・チーズを洗う

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

前任校では校内球技大会が行われると、どこのクラスもお揃いのクラスTシャツで盛り上がっていた。クラスの一致団結を図るシンボルなのだろう。クラス担任もお揃いのTシャツを着て無礼講である。残念なのは、どこのクラスもサッカー関係のデザインばかりでバスケット関係が一つもなかったことである。「みんな一緒」なのだ。

みんな一緒の〈普通の存在〉から〈並はずれた存在〉〈卓越した存在〉になるにはどうしたら良いかを常に考えている。『ビジョナリー・カンパニー』という経済本にはそれらのヒントが盛りだくさん。経済もスポーツも人間がなせること。原理原則は共通である。

その本によると、飛躍を遂げた偉大なる企業の飛躍の原因を調査すると、いくつかのキーワードに繰り返しぶつかることが多い。「規律」「厳しい」「根気強い」「断固として」「熱心」「几帳面」「綿密」「組織的」「整然と」「職人のように」「厳格」「一貫性のある」「責任ある」等。このような飛躍を遂げた企業の人たちは例外なくそれぞれの責任を果たそうとする意欲が極端に強く、熱狂的であるようだ。この本ではそのような特徴を「カッタージ・チーズを洗う」という比喻で表現している。これはハワイの鉄人レースで6回優勝したトライアスロンの世界的なスター選手、デーブ・スコットの逸話に因んだ表現である。

カッタージ・チーズとは脂肪、タンパク質などが豊富に含まれているチーズの中で、最も脂肪分の少ないチーズのことである。私はいつもカマンベールチーズとベビーチーズしか食べないので、このようなチーズの存在を初めて知った。

スコットは毎日の練習で、平均して自転車で120キロメートル、水泳で2万メートル、長距離走で27キロメートルを一日も欠かさずこなしている。太り過ぎるはずもない。それでも彼は脂肪分が少なく、炭水化物の多い食事をとれば、さらに能力が高まると確信している。そこで、毎日の練習で少なくとも5千カロリーを消費しながら、文字どおりカッタージ・チーズを洗って、脂肪分を少しでも取り除いた後に食べているという。

この比喻が何を言わんとしているか。鉄人レースに勝つにはカッタージ・チーズを洗わなければならないことを示唆しているわけではない。核心はそこにはない。脂肪分の少ないチーズの脂肪をさらに洗うというのは、とても小さなことではあるが、この小さなことにこだわることによって、自分の力がさらに強まると本人が確信している点にこそ核心がある。この小さなこだわりを他の色々な場合にも応用することによって、強烈なほど規律ある一貫したトレーニング計画を作り上げている。

飛躍した偉大な企業はどれも、デーブ・スコットに似ているとこの本は説いている。偉大になれたのはなぜか、その答えは、慎重に選び抜いた分野で世界一になるために必要なことはすべて行い、そして、さらに一層の改善を常に目指す姿勢、この規律にある。秘訣はこれほど単純。そして、これほどむずかしいことはない。

私たちがバスケットボールにかかわる姿勢はどうだろう。〈カッタージ・チーズを洗う〉比喻に見合うだけの毎日の小さな努力、小さなこだわりがなされているのだろうか。可能性を現実に変えるために必要なことはすべて行うという強い意思を持ち続けているのだろうか。仕切り直しである。仕切り直しは大相撲の世界だけの話ではない。